

看護学生の臨床実習に対する意欲調査

池 田 公 子
小 玉 美 智 子

I ま え が き

看護教育における臨床実習のしめる時間は1,125時間と非常に多く、そのためか臨床実習半ばに実習意欲の低下がみられるのではないかと推測し、本学の学生を対象に実習経過とともに実習意欲の推移を知り、その指導のあり方の一糸になればと思いこの調査を行なったので、その結果を報告する。

II 調査の対象と方法

〔1〕 対 象

対象は、筆者等が勤務する〇県立短期大学看護科42年度入学生について、基礎実習時、昭和43年5月（以下初期と記述する）、各科実習½終了時、昭和44年5月（以下中期と記述する）、各科実習終了前、昭和44年12月（以下後期と記述する）の3回に分けて行なったものである。

〔2〕 方 法

既報¹⁾と同様質問紙法で調査票Ⅰ・Ⅱとある。調査票Ⅰは主に住所、通学時間、通学方法、進路等の質問を設け、初期に9問、中期、後期にそれぞれ7問を準備した。

表1 各期別配布数および回収率

	配布数	回収率
初 期	47	87.2%
中 期	45	88.9%
後 期	45	91.1%

調査票Ⅱでは、実習意欲、実習方法、疲労度等の質問を設定し実習各期とも19問を準備し各問を5項目とした。

III 臨床実習概要

臨床実習は基礎実習と各科実習に分け、基礎実習は2年次前期に2週間1単位、各科実習は2年次後期から3年次全期間にわたって1週間に4日間25単位行なった。

IV 背 景

本学は独自の実習病院を持っておらず、臨床実習は、国立〇病院（以下A病院側と記述する）、および〇赤十字病院（以下B病院側と記述する）を主とし、県立〇病院（精神科看護実習のみ）に実習の場を求めている。臨床指導者は現在6名で、A病院側では内科、小児科、産婦人科に、B病院側では内科、外科、産婦人科に1名宛出向している。上記以外の実習科においては施設婦長・主任・学生指導係等に指導を全面依頼している。なお、A病院側もB病院側も本学の他に2校の高等看護学院の学生が共に実習を行なっている。

V 調査結果および考察

①あなたはどこから通学していますか。

表 2 通 学 状 況 率

回答項目	実習時期			中 期			後 期		
	A病院側	B病院側	全 体	A病院側	B病院側	全 体	A病院側	B病院側	全 体
学 生 寮	21.7%	22.2%	22.0%	0	0	0	0	0	0
自 宅	39.1%	27.8%	34.1%	45.0%	35.0%	40.0%	17.1%	40.0%	36.6%
下 宿	39.1%	50.0%	43.9%	55.0%	65.0%	60.0%	66.7%	60.0%	63.4%

表2からみて一番大きな数値の動きは、初期には学生寮に20%強の学生が入寮していたのが、中期、後期には皆無となっている点である。これは他科^(注1)との関係で、本学の学生寮は学生に出来るだけ平等に施設の利用をはかるということから、3年間も寮に入るのは遠慮するという結果このような結果を得たものと考えられる。

(注1 本学は看護科の他に食物科、体育科、保育科を設置しており、他の科は2年間である。)

②あなたは将来どの方面に進みたいですか。

表 3 進 路 志 望 率

回答項目	実習時期			中 期			後 期		
	A病院側	B病院側	全 体	A病院側	B病院側	全 体	A病院側	B病院側	全 体
(イ) 看 護 婦	17.4%	22.2%	19.5%	30.0%	30.0%	30.0%	42.9%	40.0%	41.5%
(ロ) 保 健 婦	4.3%	11.1%	7.3%	5.0%	15.0%	10.0%	14.3%	20.0%	17.1%
(ハ) 助 産 婦	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(ニ) 養 護 教 諭	52.2%	61.1%	56.1%	65.0%	40.0%	52.5%	33.3%	30.0%	31.7%
(ホ) そ の 他	21.7%	5.6%	14.6%	0	15.0%	7.5%	9.5%	10.0%	9.8%
回答なし	4.3%	0	2.4%	0	0	0	0	0	0

(イ)看護婦志望は初期19.5%、中期30.0%、後期41.5%と初期にくらべ後期では約2倍強となっている。このことは次の養護教諭志望と関係しており、(ニ)養護教諭志望は初期56.1%、中期52.5%、後期31.7%と次第に低下している。特にB病院側においては初期61.1%が後期では30.0%と著しく低下している。このことは全体的にみて、後期の調査時には養護教諭採用試験の結果が発表されたあとであったため、看護婦又は進学志望(保健婦、養護教諭一級)を希望し、このような結果になったと思われる。

③あなたは、入学前に考えていた看護教育と現実とはどうですか。

表 4 看 護 教 育 に 対 す る 感 想 状 況 率

回答項目	実習時期			中 期			後 期		
	A病院側	B病院側	全 体	A病院側	B病院側	全 体	A病院側	B病院側	全 期
(イ) 考 えて いた 通 り で あり	4.3%	11.1%	7.3%						
(ロ) 大 体 考 えて いた 通 り で あり	38.3%	50.0%	43.9%						
(ハ) 大 分 考 えて いた の と は 違 う	35.4%	33.3%	29.3%						
(ニ) 全 く 違 う	4.3%	0	2.4%						
回答なし	25.4%	5.6%	17.1%						

この項については初期についてのみ調査しているが、(イ)考えていた通りである、(ロ)大体考えていた通りであると肯定的回答は51.2%で、昭和44年調査の既報では26.0%であったのに今回は全体的にみても約2倍の数値を得、また、B病院側のみみても61.1%と大巾に増加していることがわかる。このことで入学前の看護教育に対する認識が高まっていることが判明した。しかし、このことが即実習意欲と結びつかず、あまり関係ないことがわかった。

(I) 実習意欲について

④あなたは月刊専門雑誌^(註2)を読みますか。

(注2 看護学雑誌, 看護技術, 看護, 保健婦雑誌, 助産婦雑誌, その他)

表 5 読 書 率

回答項目	実習時期			中 期			後 期		
	A病院側	B病院側	全 体	A病院側	B病院側	全 体	A病院側	B病院側	全 体
(イ)全く読まない	30.4%	16.7%	26.8%	25.0%	15.0%	20.0%	23.8%	5.0%	14.6%
(ロ)殆んど読まない	13.0%	22.2%	17.1%	25.0%	35.0%	30.0%	23.8%	30.0%	26.8%
(ハ)必要あれば読む	26.1%	22.2%	24.4%	40.0%	20.0%	30.0%	14.3%	45.0%	29.3%
(ニ)時々読む	26.1%	27.8%	26.8%	10.0%	25.0%	17.5%	33.3%	15.0%	24.4%
(ホ)毎月読む	4.3%	11.1%	7.3%	0	5.0%	2.5%	4.8%	5.0%	4.9%

(ホ)毎月読む、(ニ)時々読むと肯定的回答をしたものは初期に34.1%、中期に20.0%、後期に29.3%となっており、(イ)全く読まない、(ロ)殆んど読まないと否定的回答をしたものは初期41.5%、中期50.0%、後期41.1%となっており、否定的回答が肯定的回答をうまわっている。これを病院別にみると、肯定的回答が初期は、A病院側29.7%、B病院側38.9%、中期はA病院側10.0%、B病院側30.0%、後期はA病院側38.9%、B病院側20.0%となっており、A病院側は病棟に月刊専門雑誌が1～2部備えつけになっており、若林等⁽³⁾の調査からも、各実習場に教具、教材、図書等の設備の充実が書かれているが手近にあることは学生の利用をある程度高くしていると考えられる。

⑤あなたは実習するにあたり予習・復習をしていますか。

表 6 予 習 ・ 復 習 状 況

回答項目	実習時期			中 期			後 期		
	A病院側	B病院側	全 体	A病院側	B病院側	全 体	A病院側	B病院側	全 体
(イ)毎日している	30.4%	72.2%	48.8%	15.0%	35.0%	25.7%	9.5%	30.0%	19.5%
(ロ)時々している	65.2%	22.2%	46.3%	65.0%	55.0%	60.0%	61.9%	55.0%	58.5%
(ハ)殆んどしていない	4.3%	5.6%	4.9%	20.0%	10.0%	15.0%	23.8%	15.0%	19.5%
(ニ)全くしていない	0	0	0	0	0	0	4.8%	0	2.4%

(イ)毎日している、(ロ)時々していると肯定的回答をしたものが、初期に95.1%、中期に85.7%、後期に78.0%と少しずつ低下し、また、反対に(ニ)全くしていない、(ハ)殆んどしていないと否定的回答をしたものは初期4.9%、中期15.0%、後期21.9%と次第に高くなっている。うちでも(ニ)全くしていないと回答したものは初期、中期は皆無で、後期に2.4%とわずかながらみられた。この学生は進路別では看護婦志望となっている。病院別では、肯定的回答は初期にA病院側95.6%、B病院側94.4%、中期にA病院側80.0%、B病院側90.0%、後期にA病院側71.4%、B病院側85.5%とA病院側に少々低下率が大きい。そのうち(イ)毎日しているは実習各期共B病院側がA病院側の2倍以上を示していることが判明した。否定的回答をした学生は初期においては実習に対する予習・復習の方法がよく理解出来ていなかったように各項の回答から受けとれた。しかし後期においては各項目はほとんど否定的回答で実習方法の責任の項のみ肯定的回答をしている。

⑥実習は自分で学ぼうとしていることが学べると思えますか。

表 7 学 習 状 況

回答項目	実習時期			中 期			後 期		
	A病院側	B病院側	全 体	A病院側	B病院側	全 体	A病院側	B病院側	全 体
(イ)よく学ぶことが出来る	13.0%	5.6%	9.8%	0	0	0	4.8%	0	2.4%
(ロ)大体学ぶことが出来る	72.2%	55.6%	56.1%	35.0%	40.0%	37.5%	23.8%	30.0%	26.8%
(ハ)どちらともいえない	26.1%	33.3%	29.3%	60.0%	60.0%	60.0%	52.4%	60.0%	56.1%
(ニ)殆んど学べない	4.3%	5.6%	4.9%	5.0%	0	2.5%	14.3%	10.0%	12.2%
(ホ)全く学べない	0	0	0	0	0	0	4.8%	0	2.4%

(イ)よく学ぶことができる、(ロ)大体学ぶことができる肯定的回答をしているのは初期に65.9%、中期に37.5%、後期に29.2%と低下が顕著である。病院別では肯定的回答をしている学生は初期にA病院側69.5%、B病院側61.2%、中期にA病院側28.5%、B病院側30.0%を示し、否定的回答は初期にB病院側が高く、中期、後期にはA病院側が高くみられる。反対にA病院側は初期にはB病院側をうわまわる肯定的回答を示したにもかかわらず、中期、後期と大巾に低下している。これは初期においては藤原等⁽²⁾の一般看護技術必修項目の履習度についても差異があり内容的にも技術中心で比較的単純な実習で、その上指導教員が常駐して全ての技術項目を指導している。又、中期、後期においては実習内容が複雑であると同時に人間関係のむずかしさも手伝って実習意欲が低下したものと考えられる。

⑦実習中に自分の勉強不足を見い出した時追求して勉強していますか。

表 8 追 求 意 欲 に つ い て

回答項目	実習時期			中 期			後 期		
	A病院側	B病院側	全 体	A病院側	B病院側	全 体	A病院側	B病院側	全 体
(イ)追求している	17.4%	5.6%	12.2%	15.0%	10.0%	12.5%	9.5%	10.0%	9.8%
(ロ)大体追求している	47.8%	55.6%	51.2%	40.0%	35.0%	37.5%	33.3%	30.0%	26.8%
(ハ)するともありしないこともある	34.8%	33.3%	34.1%	45.0%	50.0%	47.5%	52.4%	60.0%	56.1%
(ニ)殆んど追求しない	0	5.6%	2.4%	0	0	0	4.8%	0	2.4%
(ホ)全く追求しない	0	0	0	0	0	0	0	0	0
回答なし	0	0	0	0	5.0%	2.5%	0	0	0

(イ)追求している, (ロ)大体追求していると肯定的回答は初期に63.4%, 中期に50.0%, 後期に41.5%で, 否定的回答は初期と後期にそれぞれ2.4%みられる。その後期の否定的回答の進路志望別では, この項でも看護婦志望となっている。病院別では肯定的回答は初期にA病院側75.2%, B病院側61.2%, 中期にA病院側55.0%, B病院側45.0%, 後期にA病院側4.8%, B病院側40.0%といずれも低下しているが, A病院側は常にB病院側を上まわっており一部をのぞいて学生の積極性と考えられる。しかしその後期の看護婦志望学生の否定的回答は予習・復習状況においても否定的回答をしているが若林等⁽³⁾の調査における「消極的態度というよりもむしろ, 学ぼうとする意欲が高いもの」と既報の「その他」の学生の特に意欲に欠けるものに準じるの二種にわかれ指導上の課題と思われる。

⑧実習は興味深く実習できていると思いますか。

表 9 実 習 興 味 状 況

回答項目	実習時期			中 期			後 期		
	初 期	中 期	後 期	A病院側	B病院側	全 体	A病院側	B病院側	全 体
(イ)興味深くできる	26.1%	22.2%	24.4%	10.0%	10.0%	10.0%	0	0	0
(ロ)大体興味深くできる	52.2%	44.4%	48.8%	25.0%	45.0%	35.0%	14.3%	35.0%	24.4%
(イ)どちらともいえない	17.4%	33.3%	24.4%	45.0%	35.0%	40.0%	47.6%	45.0%	46.3%
(ロ)殆んど興味がない	4.3%	0	2.4%	20.0%	5.0%	12.5%	38.1%	20.0%	29.3%
(ロ)全く興味がない	0	0	0	0	0	0	0	0	0
回答なし	0	0	0	0	5.0%	2.5%	0	0	0

(イ)興味深く出来る, (ロ)大体興味深く出来ると肯定的回答は初期に73.2%, 中期に45.0%, 後期に24.4%と初期と後期とでは1/3の低下がみられる。また, 逆に否定的回答は10倍強となっている。病院別では肯定的回答は初期にA病院側77.6%, B病院側66.6%, 中期にA病院側35.0%, B病院側55.0%, 後期はA病院側14.3%, B病院側35.0%であり, 特にA病院側にその傾向が強くあらわれている。これは合同実習に対する効果判定状況と関係深いので次に述べる。

⑨三校合同の実習は効果的であると思いますか。

表 10 合 同 実 習 に 対 す る 効 果 判 定 状 況

回答項目	実習時期			中 期			後 期		
	初 期	中 期	後 期	A病院側	B病院側	全 体	A病院側	B病院側	全 体
(イ)非常に効果的である				0	0	0	0	0	0
(ロ)効果的である				5.0%	15.0%	10.0%	9.5%	20.0%	14.6%
(イ)どちらともいえない				50.0%	40.0%	45.0%	57.1%	40.0%	48.8%
(ロ)効果的とは思えない				40.0%	40.0%	40.0%	28.6%	35.0%	31.7%
(ロ)全く効果的でない				5.0%	0	2.5%	4.8%	5.0%	4.9%
回答なし				0	5.0%	2.5%	0	0	0

初期（基礎実習）は実習が本学単独で行なわれているので調査は行なわなかった。(イ)非常に効果的である、(ロ)効果的であると肯定的回答は中期10.0%、後期14.6%で、否定的回答は中期45.0%、後期36.6%となっており、病院別には肯定的回答は中期にA病院側5.0%、B病院側15.0%、後期にA病院側9.5%、B病院側20.0%でいずれも低率である。また、両病院とも学生数が多いためか効果的でないと回答しているが、特にA病院側が高率を示している。しかし、後期に肯定的回答が少々増していることは、お互に慣れると親しくなりこのような結果となったものと考えられる。学生数が患者数に比べ非常に多いことは実習内容に欠けるのではないかと既報にも述べたように受持患者の選択、実習項目の減少で実習効果が、あがらないのとあいまって実習意欲や上記の実習興味状況も低下するのではないかと考えられ、実習病院と学生数の問題が出てくる。

(II) 実習方法について

⑩実習中空白な時間があると思いますか。

表 11 実習期間中の空白感の状況

回答項目	初 期			中 期			後 期		
	A病院側	B病院側	全 体	A病院側	B病院側	全 体	A病院側	B病院側	全 体
(イ)ある	4.3%	11.1%	7.3%	15.0%	0	7.5%	28.6%	25.0%	26.8%
(ロ)時々ある	60.9%	66.7%	63.4%	20.0%	55.0%	37.5%	38.0%	45.0%	41.5%
(ハ)どちらともいえない	8.7%	0	4.9%	25.0%	10.0%	17.5%	14.3%	10.0%	12.2%
(ニ)殆んどない	8.7%	16.7%	12.2%	35.0%	25.0%	30.0%	14.3%	20.0%	17.1%
(ホ)全くない	17.4%	5.6%	12.2%	5.0%	5.0%	5.0%	4.8%	0	2.4%
回答なし	0	0	0	0	5.0%	2.5%	0	0	0

(イ)ある、(ロ)時々あると肯定的回答は初期に70.7%、中期に45.0%、後期に68.8%となっており、中期が一番低率となっている。病院別では肯定的回答は初期にA病院側65.2%、B病院側70.0%、中期にA病院側35.0%、B病院側55.0%、後期にA病院側66.7%、B病院側70.0%となっており、否定的回答はA病院側に少々高率となっており、A病院側に空白な時間が少ないことを示している。空白な時間は、やはり全期間を通じ即ち空白な時間があると感じているものが多いことは、実習計画の立て方と実習意欲に関係が深い。若林等⁽³⁾も空白な時間と考えているものを余裕のある時間、考える時間、まとめる時間とすることに関心と学習的よろこびをもたせるとしており、学生の実習場の現状把握が未熟なため実習計画と実習内容に一致しないものがあるとも考えられるので指導者の側面からの援助が必要であろう。

⑩毎日の実習は計画的になされていると思いますか。

表 12 実習計画に対する感想の状況

回答項目	実習時期			中 期			後 期		
	初 期	中 期	後 期	A病院側	B病院側	全 体	A病院側	B病院側	全 体
(イ)計画的である	26.1%	16.7%	22.0%	0	0	0	9.5%	0	4.9%
(ロ)大体計画的である	47.8%	55.6%	51.2%	50.0%	30.0%	40.0%	19.0%	45.0%	31.7%
(ハ)どちらともいえない	13.0%	11.1%	12.2%	30.0%	50.0%	40.0%	42.9%	35.0%	39.0%
(ニ)殆んど計画的でない	8.7%	16.7%	12.2%	20.0%	15.0%	17.5%	23.8%	20.0%	22.0%
(ホ)全く計画的でない	4.3%	0	2.4%	0	0	0	4.8%	0	2.4%
回答なし	0	0	0	0	5.0%	2.5%	0	0	0

(イ)計画的である、(ロ)大体計画的であると肯定的回答は初期に73.2%、中期に40.0%、後期に36.6%と次第に低下しており、病院別では肯定的回答は初期にA病院側73.2%、B病院側72.3%、中期にA病院側50.0%、B病院側30.0%、後期にA病院側28.5%、B病院側45.0%となっており、A病院側は実習が進むにつれて次第に低下しており、B病院側は中期を最低としている。また、A病院側に初期と後期に(ホ)全く計画的でないと回答したものが4%少々いる。しかしその内容は初期に(ホ)全く計画的でないと回答した学生は実習意欲の面では、だいたい肯定的回答をしているが、後期のその学生は殆んどすべての項目について否定的回答をしており進路志望は看護婦となっているのは、先の実習意欲の項でも述べている。

⑪経験項目を実習するにあたり、責任を持たされていると思いますか。

表 13 実習責任に関する解釈の状況率

回答項目	実習時期			中 期			後 期		
	初 期	中 期	後 期	A病院側	B病院側	全 体	A病院側	B病院側	全 体
(イ)常にもたされている	39.1%	33.3%	36.6%	25.0%	10.0%	17.5%	0	15.0%	7.3%
(ロ)大体持たされている	39.1%	55.6%	46.3%	30.0%	55.0%	42.5%	42.9%	40.0%	41.5%
(ハ)どちらともいえない	13.0%	5.6%	9.8%	30.0%	25.0%	27.5%	28.6%	25.0%	26.8%
(ニ)殆んど持たされていない	8.7%	0	4.9%	15.0%	5.0%	10.0%	19.0%	20.0%	19.5%
(ホ)全く持たされていない	0	0	0	0	0	0	9.5%	0	4.9%
回答なし	0	5.6%	2.4%	0	5.0%	2.5%	0	0	0

(イ)常にもたされている、(ロ)大体もたされていると肯定的回答をしたものが、初期に82.9%、中期60.0%、後期24.4%となっており、病院別には肯定的回答は初期にA病院側76.6%、B病院側88.9%、中期にA病院側55.0%、B病院側65.0%、後期にA病院側42.9%、B病院側55.0%となっておりB病院側に少々高率となっている。しかし、実習経験をつむにしたがって責任を持たされるであろうと推測したが逆の結果を得た。しかし、実際においては初期よりも後期に責任をもたされており、経験をつむにしたがい学生も看護職員に準ずる責任を要求しているとも考えられ指導者は学生の責任の範囲を十分に納得させ指導しなくてはならないだろう。

⑬ 実習は責任をもった方が実習効果があがると思いますか。

表 14 実習責任と効果に関する感想の状況率

回答項目	実習時期			中 期			後 期		
	初 期	中 期	後 期	A病院側	B病院側	全 体	A病院側	B病院側	全 体
(イ)あ が る	56.5%	77.8%	65.9%	55.0%	70.0%	62.5%	52.4%	55.0%	53.7%
(ロ)大 体 あ が る	17.4%	5.6%	12.2%	25.0%	10.0%	17.5%	14.3%	25.0%	19.5%
(ハ)ど ち ら と も い え な い	26.1%	16.7%	22.0%	20.0%	15.0%	17.5%	28.6%	20.0%	24.4%
(ニ)殆 ん ど あ が ら な い	0	0	0	0	0	0	4.8%	0	2.4%
(ホ)全 く あ が ら な い	0	0	0	0	0	0	0	0	0
回答なし	0	0	0	0	5.0%	2.5%	0	0	0

(イ)あがる、(ロ)大体あがると肯定的回答は初期に78.1%、中期80.0%、後期73.2%と高率を示している。病院別では肯定的回答は初期にA病院側73.9%、B病院側83.4%、中期にA病院側80.0%、B病院側80.0%、後期にA病院側66.7%、B病院側80.0%と後期にA病院側に少々低率をみたので、全体的に高率を示し、学生は学生としての責任をもたされることを希望し効果があがると考えており、実習責任に関する解釈の状況率と合せて指導したい。

(Ⅲ) 疲労度について

⑭ 実習は肉体的に負担になると思いますか。

表 15 肉体的負担感の状況率

回答項目	実習時期			中 期			後 期		
	初 期	中 期	後 期	A病院側	B病院側	全 体	A病院側	B病院側	全 体
(イ)負 担 に な ら な い	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(ロ)殆 ん ど 負 担 に な ら ない	4.3%	16.7%	9.8%	5.0%	10.0%	7.5%	4.8%	0	2.4%
(ハ)ど ち ら と も い え な い	8.7%	11.1%	9.8%	0	10.0%	5.0%	0	5.0%	2.4%
(ニ)あ る 程 度 負 担 に な る	69.6%	50.0%	61.0%	40.0%	40.0%	40.0%	38.1%	45.0%	41.5%
(ホ)負 担 に な る	17.4%	22.2%	19.5%	55.0%	35.0%	45.0%	57.1%	50.0%	53.7%
回答なし	0	0	0	0	5.0%	2.5%	0	0	0

(ロ)負担になる、(ニ)ある程度負担になると肯定的回答は初期に80.5%、中期に85.0%、後期に95.2%と次第に上昇しており、特に初期は半日実習であったにもかかわらず、高率であるのは、病院実習が最初であり、また時期的に5月という普通でも体が疲れやすい時期であったためと考えられる。病院別では肯定的回答は初期にA病院側87.0%、B病院側72.2%、中期にA病院側95.0%、B病院側75.0%、後期にA病院側95.2%、B病院側95.0%となっており肉体的負担が非常に強いことを示している。これは既報でも述べたように長時間にわたる実習で、看護婦養成指定規則にもとづくもので改善の余地はないにしても指導者による実習場の学習的雰囲気、実習内容の充実をはかることにより少しでも改善できるのではないだろうか。藤原等²⁾による「自己学習時間の利用状況」からも1.休養、2.予習、3.記録類の整理、4.復習、5.

研究資料の収集となっており肉体的疲労が強いので休養に使っている学生が多い結果からも推察出来る。

⑤実習は精神的に負担になると思いますか。

表 16 実習の精神的負担感の状況率

回答項目	実習時期 初 期			中 期			後 期		
	A病院側	B病院側	全 体	A病院側	B病院側	全 体	A病院側	B病院側	全 体
(f)負担にならない	4.3%	16.7%	9.8%	0	5.0	2.5%	0	5.0%	2.4%
(g)殆んど負担にならない	4.3%	5.6%	4.9%	5.0%	0	2.5%	0	0	0
(h)どちらともいえない	13.0%	0	7.3%	0	15.0%	7.5%	0	5.0%	2.4%
(=)ある程度負担になる	39.1%	61.1%	48.8%	40.0%	50.0%	45.0%	52.4%	35.0%	43.9%
(n)負担になる	39.1%	16.7%	29.3%	55.0%	25.0%	40.0%	47.6%	55.0%	51.2%
回答なし	0	0	0	0	5.0%	2.5%	0	0	0

(n)負担になる、(=)ある程度負担になると肯定的回答は初期に78.1%，中期85.2%，後期95.1%となっており肉体的負担感と同じような結果を得た。病院別では、肯定的回答は初期にA病院側76.6%，B病院側77.8%，中期にA病院側95.0%，B病院側75.0%，後期にA病院側100.0%，B病院側90.0%でA病院側に少々高率となっている。また実習初期の実習は技術中心の単元実習の様な型であったためか、肉体的負担感にはみられない(f)負担にならないという回答を9.8%得た。精神的に疲労しやすいのは既報と同様、人間の看護、複雑な人間関係であろうと考える。これは学校で学んではいたが、病院実習をすることにより明確になった問題と思われる。

⑩学校が要求する実習に関する提出物は負担になると思いますか。

表 17 提出物に関する負担感状況率

回答項目	実習時期 初 期			中 期			後 期		
	A病院側	B病院側	全 体	A病院側	B病院側	全 体	A病院側	B病院側	全 体
(f)負担にならない	4.3%	5.6%	4.9%	5.0%	5.0%	5.0%	4.8%	0	2.4%
(g)殆んど負担にならない	13.0%	5.6%	9.8%	10.0%	10.0%	10.0%	4.8%	10.0%	7.3%
(h)どちらともいえない	13.0%	5.6%	9.8%	5.0%	0	2.5%	9.5%	0	4.9%
(=)ある程度負担になる	43.5%	77.8%	9.8%	65.0%	60.0%	62.5%	57.1%	60.0%	58.5%
(n)負担になる	26.1%	5.6%	58.5%	15.0%	20.0%	17.5%	23.8%	30.0%	26.8%
回答なし	0	0	17.1%	0	5.0%	2.5%	0	0	0

(n)負担になる、(=)ある程度負担になると肯定的回答は初期に76.6%，中期80.0%，後期85.3%と次第に高くなっており、病院別には初期にA病院側78.8%，B病院側83.4%，中期にA病院側80.0%，B病院側80.0%，後期にA病院側80.9%，B病院側90.0%と少々B病院側が高くなっており。全体的にみて初期は前述したように半日実習であったため、その半日を活用することにより、肯定的回答が低率であろうと推測したが、その予想はくつがえされた。

⑰学校が要求する提出物は実習に当り勉強になり実力がつくと思いますか。

表 18 提出物の効果感状況率

回答項目	初 期			中 期			後 期		
	A病院側	B病院側	全 体	A病院側	B病院側	全 体	A病院側	B病院側	全 体
(イ)勉強になり実力がつく	34.8%	44.4%	39.0%	25.0%	20.0%	22.5%	4.8%	10.0%	7.3%
(ロ)大体勉強になり実力がつく	34.8%	27.8%	31.7%	35.0%	25.0%	30.0%	28.6%	25.0%	26.8%
(ハ)どちらともいえない	30.4%	22.2%	47.8%	30.0%	45.0%	37.5%	38.1%	50.0%	43.9%
(ニ)殆んど勉強にもな(=)らないし実力もつかない	0	0	0	10.0%	5.0%	7.5%	23.8%	10.0%	17.1%
(ホ)全く勉強になら(=)ないし実力もつかない	0	0	0	0	0	0	4.8%	5.0%	4.9%
回答なし	0	5.6%	2.4%	0	5.0%	2.5%	0	0	0

(イ)勉強になり実力がつく、(ロ)大体勉強になり実力がつくと肯定的回答は初期70.7%、中期52.5%、後期34.1%と大巾にその率は減少している。反対に否定的回答は初期には皆無であり、中期に7.5%、後期に22.0%と次第に上昇している。病院別では肯定的回答は初期にA病院側67.3%、B病院側72.2%、中期にA病院側60.0%、B病院側45.0%、後期にA病院側33.3%、B病院側35.0%となっており、(ハ)どちらともいえないと回答したものはB病院側に多く、否定的回答はA病院側に多くみられた。なお、この否定的回答を分析してみたが、実習意欲、実習方法ともに特別に実習意欲に欠けているとか、実習方法に欠点があるとは思えないが、進路志望をみるとA病院側、B病院側ともに「その他」と「看護婦」志望のものであった。

結 語 と 反 省

以上筆者等は、独自の病院をもたない短大課程での実習意欲の推移を調査した。

(1) 1つの学校で精神科疾患と看護実習をのぞき、2病院で大部分の実習をするにあたり、実習意欲に多少差が出ている。この差は、両病院に出ている指導教員の連絡会議と両病院の婦長、主任による実習打合せ会などを内容的に高めることにより差をなくする方向に進めたい。

(2) また実習期間が長期であること、肉体的、精神的負担感が高いことから、学生個々を把握したうえで実習計画、実習内容を充実させ学習意欲を持たせるように専任の指導者が援助すべきである。

(3) 3校合同実習は今後増々学生数の増加が予測されるにあたり、各校の教務連絡を密にし、学生数の調整をはかり実習内容が高められるよう考慮すべきである。

この調査を終るにあたり、ご協力願った学生諸姉に深く感謝の意を表します。

参 考 文 献

- (1) 池田公子ら：看護学生の臨床実習に対する意欲調査
看護教育 VOL.10, No.11 医学書院 1969
- (2) 藤原幸江ら：基礎実習について
看護教育 VOL. 10 No.6, 医学書院 1969(3)
- (3) 若林敏子：臨床指導のあり方 その2
岡山県立短期大学研究紀要 No13 1969
柴田明子著：看護学生 医学書院
金子 光著：保母助産看護婦法の解説 中央医書出版社